

令和5年度 県立土浦湖北高等学校自己評価表

No. 1

目指す 学校像	・文武両道を柱とする活力ある進学校 ・校訓である「自律・創造・奉仕」の実践を通して、地域・社会に貢献する人材育成 ・信頼と魅力あふれる開かれた学校		
三つの方針		具体的目標	
「三つの方 針」 (スクール・ ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) ○文武両道に励み、多彩な部活動で健やかな心身を育成します。 ○地域社会を輝かせる人材として、郷土を愛する心を育成します。 ○人権を尊重し、他者を思いやる心と道徳的実践力を育成します。	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) ○確かな学力を育み、国公立大学進学を目指すための思考、判断、表現の充実を図ります。 ○ICTを活用し、探究心を高め他者と協働する学習を展開します。 ○文理の選択によって、進路希望を実現するための学力を身に付けます。	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) ○探究心を持って学業と諸活動に積極的に取り組み文武両道を目指す生徒。 ○他者とコミュニケーションを図り、積極的に協働しようとする生徒。 ○社会に貢献する意欲を持ち、リーダーとして活躍する生徒。	
昨年度の成果と課題		重 点 項 目	重 点 目 標
本校は文武両道を柱とする活力ある進学校を目指し、学校づくりに取り組んでいる。 令和4年度は、部活動において、コロナ禍による活動制限の中で、少林寺拳法部が全国大会、関東大会に、陸上競技部が関東大会に出場した。また、男子ハンドボール部が関東大会、全国大会の茨城県予選で3位入賞、硬式野球部が秋季関東高校野球茨城県大会で5位入賞を果たした。その他の運動部も積極的に活動している。また吹奏楽部は学校内外でコンサートを開催する等文化部の活動も活発である。 進学面においては、学力向上を主眼とする取り組みを続けた結果、茨城大学をはじめとする国公立大学に5名合格し、首都圏の難関・中堅私立大学に多数の合格者を出した。引き続き進路意識の高揚と学力の向上を図り、進学校として大学進学率をさらに高めていく必要がある。また、地元企業との情報交換を密にし、安定した就職実績も継続していきたい。 生活面においては、服装・頭髮の指導を継続的にを行っている。自転車乗車マナー等の指導をさらに徹底していく必要がある中で、豊かな心の育成と併せて継続した指導が必要である。 一方、依存心が強く「自分で決められない」生徒も多い。感謝の気持ちを育み、自立した他人からも頼りにされる生徒の育成が課題である。		学び続ける態度の育成と学力向上	① 学び続ける態度の基本となる予習と復習を徹底させ、家庭学習「0」をなくす。 ② 言語活動を取り入れ主体的・対話的で深い学びを実践し、授業改善に取り組む。 ③ 年間指導計画を活用した学習指導の充実と評価の改善を継続する。
		自分で決められる生徒の育成を目指し、それを支援するための個に応じた進路指導の充実	④ 面談指導を重ね、生徒の自己理解と早期の目標設定を推進する。 ⑤ 進路学習、就業体験を通して、望ましい勤労観・職業観を育成する。 ⑥ 進路ガイダンスや大学見学会などから、入りたい学校に積極的に挑戦する心を涵養する。 ⑦ 課外等を通して粘り強くあきらめない学習者の育成を図る。
		規範意識及び安全に関する態度の育成	⑧ ルールを守り、マナーを向上させ、規範意識を高める。 ⑨ 登校指導や自転車乗車指導を実施し、交通事故防止に努める。 ⑩ スマートフォン等の安全な利用やルール作りを推進する。 ⑪ 家庭・地域社会及び関係機関と連携し、情報の共有を図り、事故の未然防止に努力する。
		キャリアパスポートを活用し、様々な場面で多様化する生徒に対して、素直に感謝する気持ちを育み、豊かな人間性・社会性を身に付けさせ、自己のキャリア形成に生かそうとする態度の養成	⑫ ホームルーム活動を充実させ、認め合い、支え励まし合う生徒を育む。キャリアパスポートの活用により、生徒自らが学校行事やホームルーム活動、学習状況などを振り返ることで、自己評価する。 ⑬ 学校行事・ボランティア活動の充実にも努め、生徒の主体的に取り組む姿勢を涵養し、湖北生としての自信と誇りを持った生徒の育成を目指す。 ⑭ 道徳教育・教育相談を充実し、相手の気持ちになって考え、命の大切さがわかる生徒を育成し、いじめのない安心な学校作りをする。
		信頼と活力を生む開かれた学校づくりの推進	⑮ 保護者、地域社会及び中学校等に対する広報活動の充実にも努める。 ⑯ 学校Webページや進路ニュース、学年通信などを活用して、積極的な情報提供に努める。 ⑰ 教育活動を公開するとともに、外部評価や広聴活動により取組の改善に努める。
		服務規律を遵守し、地域・生徒・保護者から信頼される教職員	⑱ 日頃のコミュニケーションにより教職員の良好な関係を作りチームとして対応する組織にする。 ⑲ 職員研修の充実を図り、常にコンプライアンス意識を持って行動する教職員を目指す。 ⑳ PDCAサイクルによる評価・改善を行いながら働きやすい職場作りに努め、働き方改革を推進する。
			達成状況
			B
			B
			B
			A
			A
			A

		No. 2
働き方改革による業務の効率化	⑳ 学校行事の精選を図り、業務の見直しを進める。 ㉑ 部活動の精選や複数顧問制、外部講師の委託などを積極的に進め、教員の負担軽減に努める。 ㉒ ノー残業デー、長期休業中の時差出勤の推進や、教職員の勤務実態把握に努め、適正な勤務環境の確立を目指す。	A
学校業務におけるICT活用の充実	㉓ 授業においてICTを効果的に活用し、個の理解や関心の程度に応じた 学びを構築する。 ㉔ 生徒にICTを積極的に活用させ、情報処理能力や活用能力の向上に努める。 ㉕ 学校HPの充実や緊急情報メールを活用し、学校・生徒・保護者間の情報共有を図る。 ㉖ ICTの活用により、職員会議・成績処理・教材準備の効率化を図る。	A
授業改善の推進	㉗ 相互授業参観や研究授業、校内研修会の開催を通して、個々の授業力向上を図る。 ㉘ 生徒へ授業に関する調査を実施し、教員が自己の授業を省みて、授業満足度(KPI)の向上を図る。具体的には、各科目の肯定的評価(よくわかる・だいたいわかる)が、70%以上になるように努める。	B

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科指導		あきらめずに学習に取り組ませ、学力の向上を図る。	授業の工夫・改善とともに、家庭学習時間の確保に努める。 更なる授業の充実を図るため、授業を公開するなど授業力向上に向けた研修に努める。 ICTの活用により、成績処理や教材準備の効率化を図る。	① B ②③㉘ B ㉖ B	B 更なる授業の工夫・改善を図り、生徒の家庭学習時間の確保に結びつけられるようにしなければならない。	
	国語	基礎学力の向上を図る	小テスト等で、生徒の学習理解度を把握し、不十分な生徒には補習や追試を実施する。	①② B		B 新課程に対応しながら、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けさせることや「主体的・対話的で深い学び」を促進すること、従来以上にICTを活用することなど、今後の教育活動で重要と考えられる点に関して更に探求していく必要がある。そのためにも、教科内での連携を重視し、今後も意見交換や情報共有を行っていく。課題としては、今年度は漢字検定が受験者数不足により、2回の実施となっていました。また、合格率も低く、教科としてアプローチの改善が求められる。
		家庭学習習慣の定着に努める	授業で不十分な部分を補うために、課題プリント及び週末課題を用意し、計画的に取り組ませる。	① B		
授業の理解、定着を図る		ノート点検や机間指導を積極的に行い、生徒の理解度を確認するとともに、学習の定着を図る。	①② B			
国語力の向上		言語活動を取り入れ、主体的・対話的で深い学びを意識した育む授業実践に努める。	② A			
自分の考えを文章に表現する力を付けさせる		年間3回の漢字検定の校内実施により、国語力の向上と定着を図る。	② C			
発展的な学力の育成を図る		小論文を授業に取り入れ、文章を実際に書かせる中で、自分の考えを育て、意見とその根拠を筋道立てて述べる力を身に付けさせる。	② A			
教科内での連携を深め、業務の効率化を図る		課外、習熟度別学習、校外模試の活用等、生徒の能力や進路目標に応じた学習内容・学習形態を工夫することによって、発展的な学力の育成を図る。	① B			
		日頃のコミュニケーション等を通して教科内での連携を深め、相互に協力しやすい関係作りに努める。ICTを活用し、教材準備や成績処理において有益な点を共有することで、業務の効率化を図る。	⑱㉑㉖ A			
地理歴史	基礎学力の向上を図る	学習内容の定着を図るため、授業終了後や放課後に質問の時間を設ける。	② B	A 昨年度より始まった新学習指導要領施行に伴う教育課程における学力の3要素を中心に置いた地理総合や歴史総合、日本史探究、世界史探究での学習指導に取り組ませることができた。授業や調査後の振り返りや観点別評価の研修を通じた共通理解を図ることで、社会の中で生きてはたらく学力の形成に教科として尽力することができた。		
	家庭学習習慣の定着を図る	定期調査や課題テスト、各単元の確認テストを利用して、学習の理解度を把握する。	② A			
	生徒の意欲を喚起する授業への改善に努める	長期休業期間中の宿題や課題プリントを定期的に点検し、家庭学習の習慣を身につけさせる。	① A			
		授業での学びや活動を記録し、今後の学びや活動につなげていく。	②③ A			
		教科担当者同士で授業を公開し、教科内で授業内容・方法の改善に努める。	②③㉘ B			
		各種研究会に積極的に参加し、教科会で報告するとともに自己研鑽に努める。	② A			
	教科内での連携を深め、業務の効率化を図る	教科会や相互授業参観等を通して連携を深め、お互いに協力や助言しやすい関係作りに努める。ICTを活用し、教材研究や成績処理において有益な点を共有することで、業務の効率化を図る。	⑱㉑㉖㉘ A			
	公民	基礎学力の向上を図る	学習内容の定着を図るため、授業終了後や放課後に質問の時間を設ける。		② B	A 昨年度より始まった新学習指導要領施行に伴う教育課程において、学力の3要素を中心においた公共での学習指導に取り組むことができた。次年度政治・経済への準備も含めて改めて、公民教育は金融・消費者・主権者教育など様々な諸問題での探究学習も求められている。教科として、研修などを通じて、生徒への還元をより一層深めたいと思う。
家庭学習習慣の定着を図る		定期調査や課題テスト、各単元の確認テスト等を利用して、学習の理解度を把握する。	② A			
生徒の意欲を喚起する授業の改善に努める		長期休業期間中の宿題や課題プリント等を定期的に点検し、家庭学習の習慣をつける。	① A			
		実物教材やプレゼンテーションソフトなどの教材を工夫し、生徒の授業への意欲を喚起する。	② A			
		教科担当者同士で相互に授業を参観し、教科内で授業内容・方法の改善に努める。	②③ B			
		各種研究会に積極的に参加し、教科会で発表するとともに自己研鑽に努める。	② A			
	教科内での連携を深め、業務の効率化を図る	教科会や相互授業参観等を通して連携を深め、お互いに協力や助言しやすい関係作りに努める。ICTを活用し、教材研究や成績処理において有益な点を共有することで、業務の効率化を図る。	⑱㉑㉖㉘ A			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科	数 学	意欲的に授業に臨ませる	生徒が意欲的に取り組む授業の実践方法を研究し、定期的に教科会で協議・報告し合う。②	A	丁寧な授業を通して、生徒が意欲的に学習に取り組めるよう心掛けた。課外では基礎の演習や模擬試験対策を徹底した。数学が苦手な生徒のために、放課後の補習課外を考查前に行った。今後はICTを効果的に活用し、よりよい授業を研究していく。
			授業担当者間で相互に授業観察を行い、生徒の意欲を引き出す授業展開ができているか研究・協議を行う。②⑬⑳	B	
			ICTを活用し、生徒の授業の内容理解や意欲の向上につなげる。⑱	A	
		年間授業計画に沿った授業を展開する	定期的に授業担当者間で年間学習指導計画の見直しを行い、次年度に生かせるよう検討・報告する。③⑬	A	
	理 科	一人一人の自ら学ぶ意欲を高め、基礎学力の向上を図る	傍用問題集等の課題を提出させ点検を行い、家庭学習の習慣付けに努める。①	A	大多数の生徒で家庭学習量が少なく、家庭学習の習慣付けが必要である。また、実験・観察の充実、ICTの活用を目指し研修を行う必要がある。
			定期的に確認小テスト等を実施し、計画的・継続的な反復学習に取り組ませ、自力解法力を身に付けさせる。①	B	
			課題や小テストを利用して学習の理解度を確認し、家庭学習の習慣が身に付くよう指導する。①	B	
			生徒の授業への取組を評価し、その上で理解が不十分な生徒には、補習等を実施し基礎学力の定着を図る。①②㉑	A	
	保 健 体 育	生徒の実態に応じた教育課程の編成に取り組む	実験・観察を積極的に取り入れ、その結果をまとめさせることで思考力や表現力を養う。②	B	新型コロナウィルス対策が終了し始めた中での体育となった1年でしたが、これまで、グループを作って、仲間と触れ合いながら交流を図ったり、協調性を育成することがなかなかできなかったのも、来年度は、積極的に仲間と触れ合う体づくり運動を取り入れ、これまでの3年間でできなかった交流を行うことで社会性を育んでいきたい。
			各自で指導法の改善に努めるとともに、科内で話し合いを持ち科全体で指導法の工夫・改善を進める。②⑬⑳	B	
			年度当初に年間指導計画を提示するとともに、生徒の実態にあった授業内容となるようその改善に努める。③	A	
		・生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育てる	生徒の実態や施設、クラス数等の実情に応じた年間指導計画を作成する。①②③	B	
			運動領域は中学校との関連を図り、学年進行に応じた選択ときめ細かな指導を行う。①②③	A	
			安全に留意して運動実践し、3年間で生涯通しての「マイスポーツ」の獲得を目指す。①	A	
		・適切な生活習慣を身に付け、自己の健康を管理し改善していく能力を培う	運動を通して運営、仲間との交流、協調性、ルールの遵守、マナーなど社会性を育む。⑧	A	
			実技指導研修会等に積極的に参加し、授業の向上を図る。①㉒	A	
			ロールプレイやディベートを用い、健康なライフスタイルを確立する観点に立った授業を展開する。②	B	
		・心と体を一体として捉え、体育と保健を関連させた指導を目指す	飲酒、喫煙、薬物乱用、性感染症等生徒を取り巻く身近な問題は特に重点的に指導する。①②③	A	
			交通安全の指導では、交通ルールを遵守することが自らを守ることを理解させる。⑨	A	
			豊かな人生「クオリティーオブライフ」を実践できる資質を育む。⑫	A	
	芸 術	興味・関心を持ち、主体的に臨むよう努める	心と体を一体化して捉えて自分や他人の体調に気付き、体の調子を整える能力を育む。①②	B	丁寧な授業を通して、生徒が意欲的に芸術活動に取り組めるよう心掛けた。今年度からWifi環境が整い、ICTを活用した授業を行った教科では、生徒の一部から楽しかったと好評であった。意見の共有や制作過程の記録等、ICTの利便性を効果的に活用し、生徒が積極的に授業に関わる仕組みを芸術科全体で取り組めるよう努めていきたい。また、同時展開の授業のため、限られた時間ではあるが、教科間の授業参観を来年度は積極的に行っていくたい。
			健康の保持増進と運動実践の重要性を関連づけて理解させる。③	A	
		基礎技能の向上を図ると共に、学びの継続性を追求する	運動によるストレスへの対処や運動処方が大きく健康に貢献していることを理解させる。③	A	
			教室の美化をはじめ、芸術的活動をするにふさわしい環境の整備をする。②	A	
		芸術を愛する心情を育て、表現する喜びを実感する授業に努める	自らの目標を立て、その達成ができるよう援助する。②③⑫	A	
			机間指導をしっかりと行い、技術・理解度の不十分な生徒を把握し、個別指導を行う。②	A	
			生徒自身の自己評価と相互評価を効果的にさせ、向上心を育成し、学びを効果的に積み上げられるようにする。②③	B	
			きめ細かな指導を行い、その成果と課題を明確にし、次時の授業改善に活かす。②	A	
	芸 術	生徒の感性を高めるため、よりよいものを提供できるよう、担当者自身も積極的に研修会等に参加し、自己研鑽に努める。	生徒の感性を高めるため、よりよいものを提供できるよう、担当者自身も積極的に研修会等に参加し、自己研鑽に努める。②⑱	B	
			音楽・美術・書道と科目は異なるが、芸術科として相互に高めあうために授業を参観しあい、研究協議すると共に、情報交換を密にし、協力体制をとっていけるようにする。②	B	
			芸術教育を通して生徒の心に触れ、豊かな感性を培えるよう、望ましい人間関係の構築に努める。②	A	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科	外国語	充実した授業を展開する。	目標に沿った授業プランを毎時間示し、日々の授業の評価を丹念に行う。②③	A	・普段からICTを活用し、授業時間を確保することができた。 ・教科会を通して教員間で他校の指導方法について共有できた。 ・ALTの活用やアプリの活用を通して、授業の充実に努める。 ・小テストやプレゼン等を計画的に行い、観点別評価を明確にする。
			タブレットや電子黒板を活用し、授業や課題等に生かす。	A	
			授業終了後に指導内容を点検し、改善点を明らかにし、次時間に生かす。②③⑱	A	
		基礎力の向上を図る。	小テスト等を利用して理解度を把握し、不十分な場合は補習や課題等を課す。①	A	
			授業目標に沿ったきめ細やかな指導を行い、成果と課題を明確にし、作間に生かす。②③	A	
			学習内容の定着のため、休み時間や放課後に質問の時間を設ける。①	A	
			英検準2級・2級取得を目標に基礎力を充実させる。①⑥	A	
		家庭学習習慣の定着に努める。	家庭学習の定着を推進する方法について探求し、評価に反映させる。②	B	
		英語がわかる喜びを実感する授業への改善、アクティブラーニング手法を取り入れた授業づくりに努める。	担当者間で相互に授業を公開し、授業内容や方法等について科内で協議する。②⑱⑳	B	
			生徒が対話や協働学習を通して学ぶことで、課題解決能力を育む指導法や授業研究に努める。②⑲	B	
			ALTを積極的に活用するとともに、自らも交流に努めることで自己のコミュニケーション能力の向上を図り、異文化理解の態度の手本となる。②	A	
	家庭	生徒の実態に応じた指導を工夫する。	高校生活や青年期の課題を自覚させ、目標の実現に向け自ら学ぼうと思えるような指導方法の改善に努める。②㉘	A	・各単元で生徒が課題解決できるような場面を設定する。 ・外部機関と連携し、赤ちゃんふれあい体験や金融教育等を実施することで生徒の学びを深められるようにする。
			個々の活動や進歩の状況など、学習状況が把握できるようにし評価の充実に努める。③	B	
		実験・実習の充実を図る。	実践的・体験的な活動を通じて深い学びになるように努める。②	B	
		社会変化に対応した授業改善に努める。	家庭や地域の生活について課題を見つけ解決する能力を養うために問題解決型の授業の充実に努める。②	B	
		ICTの活用により働き方改革を推進する。	授業において、ICTの活用や視聴覚教材の活用の充実に努める。②㉔㉕	A	
			ICTを活用し、教材準備の効率化や業務の効率化を意識し働き方改革を推進する。⑱㉕㉖	B	
	情報	問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を活用する能力を育成する。	情報活用能力を育成するために、問題解決に関連したデータの収集・分析の授業を実施する。②㉖	B	・共通テスト必修科目導入に伴い、受験指導・対策を行う。
			問題解決能力を育成するために、情報及び情報技術を活用した授業を実施する。①㉖	B	
			主体的・対話的で深い学びを実践するために、グループによる問題解決型の授業を実施する。②③	B	
		情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成する。	情報や情報技術の活用に必要な法規や制度、マナーを身に付けさせるために、情報社会の問題点について考えさせる授業を実施する。⑧⑩⑭	B	
		業務の効率化を図り働き方改革を推進する。	授業の教材準備を効率的に行うため、ICTを活用する。㉖	B	
			PDCAサイクルによる評価・改善を行うため、生徒に授業アンケートを実施する。⑳㉑	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教務	特色ある教育課程の編成と運営	学力向上に効果的な教育課程の研究と改善に努める。 ②	A	A	観点別評価の方法について、各教科にまかされている部分が大きいので、教科間の共通理解を進めていく必要がある。 人権教育研修・ICTを活用した授業研修・コンプライアンス研修などの校内研修を企画し、共通理解に努めなければならない。 業務内容を整理し、分担体制をさらに整えていくことで、働き方改革を進めることができるのではないだろうか。
		観点別評価の方法及び年間指導計画の作成、利用について改善を継続する。 ③	B		
	授業時間の確保	授業時間を確保と、曜日のバランスの工夫をする。 ②	A		
		出張・年休等では振替を行い、授業の確保に努める。 ②	A		
		業務改善を行い、働き方改革を進める。 ②③	B		
	校内研修の充実	人権教育研修・ICTを活用した授業研修・コンプライアンス研修において本質的理解に努める。 ②⑪⑬⑮	B		
		研修内容を教員間で共有し、資質・能力の向上に努める。 ②⑮	B		
	広報活動の充実	学校案内の充実や、説明会の積極的参加により広報活動に努める。 ⑮⑯⑰	A		
		本校Webページの活用により、広報活動の多様化に努める。 ⑮⑯⑰	A		
		オープンスクールの内容を検討し、中学生や保護者への広報活動の充実を図る。 ⑮⑯⑰	A		
生徒指導	基本的生活習慣の確立	職員のコミュニケーションを通して共通理解を高め、「チームとして」協力して生徒指導にあたる。 ⑧⑬	B	B	特別な指導については年々増加傾向にある。保護者や関係諸機関と連携を取りながら指導方法の改善を行って生きた。さらに、三年目となった段階的指導の質的向上を図りながら、基本的生活のルール・マナーを向上させ、落ち着いた学校生活を送らせる指導を継続的に行っていく必要がある。
		登校指導や自転車乗車指導を実施し、交通事故防止に努める。挨拶の励行に努める。 ⑧	A		
		ルールを守り、マナーを向上させ、規範意識を高める。 ⑧	A		
	生徒理解	面談等個別指導の機会を多く設け、生徒理解に努める。 ④⑧⑫	B		
		生徒に対しては声かけや、職員間では生徒についての情報交換を積極的に行う。 ⑧⑬	A		
	交通安全教育の推進	定期的に街頭指導を行い、自転車乗車マナーのチェックを行う。 ⑨	B		
		自転車点検を積極的に行い、整備状況・ステッカー確認等の指導を行う。 ⑨	B		
	安心して学べる学校づくり	学校内外の危険箇所の把握に努め、生徒が安全に学校生活を送れるように環境を整備する。 ⑨⑳	B		
		PTA、関係諸機関との連絡を密にとり、事故防止に努める。 ⑨⑪	B		
		危機管理、不審者侵入対応マニュアルに基づき、早急に事態収拾に努める。 ⑨⑪	B		
教育相談	教育相談の充実	相談しやすい体制と雰囲気確保に努める。 ⑭	A	B	SCと協力し、困難を抱える生徒の支援に努めた。生徒の悩みの解決や特別な支援を必要とする生徒の支援に向けて、今後も学年や担任と更に連携を図っていきたい。
		生徒の悩みの早期発見と情報共有に努め、学年やSCと連携して援助する。 ⑭	A		
	特別支援教育の理解と実践	校内外の研修に積極的に参加し、研修成果を活用する。 ⑭	B		
		特別な支援を必要としている生徒の理解に努め、必要に応じてチーム援助に協力する。 ②④	B		
特別活動	ホームルーム活動・生徒会活動の活発化（自主性・協調性の育成）	ホームルームの組織や常置委員会を中心に、学校生活の改善を図らせる。 ⑫⑬	B	A	「家族限定ではあったが、湖北祭を公開で実施できた。次年度は全面一般公開としたい。全校野球応援も4年ぶりに実施できた。 クラスマッチ、芸術鑑賞会もコロナ禍以前のように実施することができた。 一方、各種委員会活動は活発化したとは言いが、湖北祭ではゴミ箱の設置や警備などの役割を果たした。学校運営に携わる当事者としての意識づけの一助になったのではないかな。
		生徒会活動を活性化し、生徒一人ひとりが主体的により良い学校生活づくりに参加するよう促す。 ⑬	B		
	学校行事の充実（帰属意識・連帯感の涵養）	各種行事（儀式的・文化的・体育的・勤労奉仕的）をバランスよく実施し、集団の一員として協力する態度を養う。 ⑬	A		
		生徒会を中心に、学校行事やボランティア活動などに協力することで、諸問題を解決する姿勢を育む。 ⑫⑬⑮	B		
	部活動の活性化（体育的・文化的資質の向上）	適切な指導の下、生徒の自主的実践的な活動を充実・発展させる。 ⑫⑬⑭	A		
		各競技・コンクール等の応援や壮行会、表彰式などを通して、高い意識で活動する姿勢を育成する。 ⑬	A		
	「豊かな心」の育成	「道徳・道徳プラス」の授業を、実施学年との連携を図りながら充実させる。 ⑭	A		
		生徒会役員を中心に、マナーアップ運動やボランティア活動を積極的に企画・運営すると共に、働き方改革も考えていく。 ⑬⑮⑯	A		
	キャリアパスポートを活用し、様々な学びを、自己のキャリア形成に生かそうとする態度の養成	様々なツールを用いて生徒の成長を促す対話的な支援を行い、自らの学習状況やキャリア形成を見据えた振り返りや自己評価を適切に行わせる。 ⑫⑬⑭	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
進路指導	生徒の実態に即した進路指導の充実に努め、進路意識の高揚を図る	学年進行に伴った適切な進路学習や進路ガイダンス等を行い、生徒の進路意識を高め、一人一人の進路目標を明確にさせる。④⑤⑱	A	B	家庭学習時間の減少が課題である。生徒個人の進路希望や生活パターンに配慮しつつ十分な学習時間を確保できるよう働きかけが必要である。また、特進クラスの編成と運営について、生徒数や部活動参加状況などを鑑みながら、職員間で共通理解を持って効果的に進めていきたい。模擬試験の実施とその活用について有効な対策を取ることが必要である。「就業体験学習」への意識付けを強化したい。
		就業体験学習(インターンシップ)や一日看護体験を行う。⑤	B		
		「進路ニュース」を発行し、進路に関する情報をタイムリーに提供する。⑥⑱	A		
	学習習慣の確立に努め、基礎学力の向上を図る	進路希望調査及び学習実態調査を行い、その結果をもとに各学年・教科での検討を進め適切な対策を取る。①④	A		
		家庭学習を習慣化させ、授業に対する取り組みの改善を図る。①	B		
	国公立大学合格者数の増加と四大進学率の向上を図る	進路希望に応じたコース編成や特進クラスの編成を行う。④⑦	A		
		働き方改革を念頭に、各種模擬試験を計画的に実施し、結果を詳細に分析してその情報を共有化する。また、各学年・教科での有効な対策を取る。④⑥⑳	B		
		特進クラスの活性化と課外授業の一層の充実を図る。④⑦⑱	B		
保健厚生	環境整美の励行及び充実	校舎内外・校庭等の美化に努め、学校生活環境の向上を図り、環境美化・衛生に取り組む。⑪	A	A	コロナウィルス感染症対策が5類に移行したことで、防災避難訓練や救命救急講習会などの行事を行うことができた。エアコンの整備、トイレの改修などが実施された。引き続き環境整備に努めたい。次年度以降もウィルス対策をしながら、対応を工夫していきたい。
		教室や分担区域等の清掃に自主的・積極的に取り組ませる。⑬	B		
	心身の健康管理及び安全衛生管理の励行	生徒の健康状態の把握に努め、健康管理、安全衛生の指導助言を行う。性教育講座、救命講習を計画し実施する。⑱	A		
		行事や企画を見直し、合理化に努める。㉑	B		
	学校事故の未然防止、及び地域と連携した防災教育の推進	危機管理、防災、熱中症対策のマニュアルの見直しにより、安全意識の高揚を図る。⑪	A		
		地域との連携による防災避難訓練等を計画・実施する。⑪⑰	B		
図書	生徒の基礎学力向上のため、読書の推進を図る	生徒・職員の希望図書を購入し、新着図書の紹介を中心に「図書館通信」を発行する。①⑱⑰	A	B	授業での活用や生徒の利用を促進するため、継続的な環境整備をしていくことが必要である。蔵書点検を継続して行い、蔵書管理を徹底する。多くの生徒が利用できるように努める。
		校内における読書の推進を図るため、図書委員会主催の読書会を開催する。⑭⑮	B		
		進路指導部との連携を図り、生徒の進路選択に役立つ図書等を充実させる。①⑥⑱	B		
	生徒の自主学習を支援するための図書館の充実を図る	図書館内の美化や図書の配置・整備を考え、利用しやすい環境を整備する。⑭㉑	B		
		生徒の自主学習の場として利用の促進を図るため、授業等で利用する資料を充実させる。①②	B		
渉外	家庭、地域、学校及び同窓会との連携強化	登校指導、祭礼巡視などの行事を企画し、地域の方々との交流を深める。⑨⑮	B	A	地域との交流の機会が少なかったが、PTA活動を通して同窓会・保護者等との適切な相互理解を深めることが出来た。そして広報誌も例年以上にスムーズに作成することが出来た。県南高P連の研修会も本部役員の協力の下、幹事高の役割を充分に果たせた。
		行事を通して、地域の方々との情報交換を積極的に行い、学校運営に生かす。⑬⑮	B		
	PTA活動の活性化	「研修旅行」、「文化祭のバザー」を企画することで、会員相互の理解を深める。⑬⑮	A		
		常にコンプライアンス意識をもって行動し、保護者との良好な関係を構築する。㉑	A		
	保護者への情報の提供	県南高P連指導者研修会の幹事校として責務を果たしていく。⑮	A		
国際交流	国際理解教育	PTA支部会、広報誌等を通して、本校の教育活動への取り組みを保護者へ広める。⑬	A		
		広く世界に目を向け、自国への理解と認識を踏まえて、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を支援する。②	B	B	JICAの講座に参加したい生徒が今年はいなかったが、次年度は国際協力についての理解や知識を深める機会を増やしたい。
		多様な文化に関する知識や、国際協力についての理解と認識を深める機会を提供する。②	B		
事務	予算の適正な執行	公金であるとの認識のもと、コスト意識に基づき早期かつ効果的な予算執行に努める。⑬	B	B	施設設備の老朽化に伴い、学校運営費での対応には限界があることから県とのヒアリング時において計画的かつ効果的な要望をしていきたい。
	個人情報管理の徹底	職員及び生徒の個人情報について情報の漏えい等がないように厳重に管理する。㉑	B		
	施設設備の適正な管理	定期的に校内巡視等を実施し、危険箇所を早期に発見する。また、危険箇所や修繕箇所については、迅速な対応を行うことにより施設設備の適正な維持管理に努める。⑬	B		
	窓口等での適切な接遇	学校の窓口業務及び電話等での対応を、適切かつ丁寧に行う。⑬	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
第1学年	基本的な生活習慣を確立させ、礼儀や社会のルールを尊重する心を育成する。また、社会生活における他者への思いやりや助け合う心、規範意識を高める。	服装容姿を整え、校則を遵守させる。 ⑧	B	学年職員で生徒の情報を共有し、必要なことがあれば、速やかに対応する体制を整えて、生徒の指導にあたることができた。 授業以外にも週末課題や小テストを積極的に実施し、生徒の基礎学力の向上に努めた。保護者面談前の生徒面談期間だけでなく、進路選択に際しては生徒面談を充実させることができた。 GoogleクラスルームやClassiなどのICTの更なる活用を考えて今後に活かしていきたい。
		挨拶と丁寧な言葉遣いを励行し、社会で求められるマナーを身に付ける。 ⑧⑨⑭	B	
		その時その時に応じた情報を提供することで、自分自身の将来に対して中長期的な見通しを持たせ、事前準備を行い時間を守る習慣を身に付けさせる。 ⑧	B	
		教員間のコミュニケーションを密にし、ICTを活用して生徒の情報を共有しながら学年担当者全員が学年全生徒の指導を行う。 ⑬⑭	B	
	主体的な学習態度を確立させ基礎学力の充実を図り、進路に対する目的意識を持たせる。	授業の大切さを認識させ、予習復習の徹底を図り、基礎学力の向上に努める。 ①②	B	
		個別面談の充実によって生徒の進路希望を把握し、進路に応じた適切な文系理系の選択ができるようにする。また情報収集に努め、的確な情報を提供し進路選択を助ける。 ④⑤⑥	A	
		教育情報ネットワークやClassiを活用し、学習活動・進路指導の両面で学びの振り返りを積極的に行わせることで、生徒の意識の向上を図る。 ⑥⑭	C	
		各試験、検定、課外活動に積極的に取り組ませる。 ⑦⑫⑭	C	
	校内外の活動に積極的に取り組ませ奉仕の心を育成し、集団における自己の在り方を学ばせる。	集団行動の意識を理解させ、協調性を育む。 ⑬	B	
		高校生としての自覚を持たせ、規律ある行動も求めるとともに、学校行事・部活動・ボランティア活動等に積極的に取り組ませる。 ④⑧⑭	B	
		校内活動・校外活動の両面での振り返りを行わせることにより自己の成長を認識させ、その後の生徒の活動に寄与させる。 ⑫⑬⑭	B	
第2学年	本校を振興させる中核を担う立場としての自覚を促す。その過程で基本的生活習慣の確立と、規範意識の涵養を図る。	服装容姿を整え、校則を遵守させる。 ⑧	B	学校行事などの機会も生かしながら、学年団として基本的生活習慣と規範意識を高めるような働きかけを継続した。 学習指導においてGoogleクラスルームやロイロノート等のICT教材を活用し、学びに向かう姿勢を向上させた。進路指導では個別面談や各種ガイダンスを通して、進路意識の涵養に努めた。 学校生活の成果の可視化については工夫の余地があるため、次年度に向けてより良い取り組みを模索していきたい。
		挨拶と丁寧な言葉遣いを励行し、社会で求められるマナーを身に付ける。 ⑧⑨⑭	B	
		集団行動の意識を理解させ、協調性を育むとともに、規律ある行動も求め、学校行事・部活動・ボランティア活動等に積極的に取り組ませる。 ⑫⑬⑭	B	
	最終学年を見据え、生徒にとって望ましい進路指導を早い時期から具体的に、個に応じた形で行うように努める。	タブレットを使用した授業を展開し、探究学習への意欲や授業の大切さを認識させ、予習復習の徹底を図り、基礎学力の向上に努める。 ①②③	A	
		個別面談の充実。生徒の進路希望を把握し、進路に応じた適切な文系理系の選択ができるようにする。また情報収集に努め、的確な情報を提供し進路選択を助ける。 ④⑤⑥	A	
		教員間のコミュニケーションを密にし、ICTを活用して生徒の情報を共有しながら学年担当者全員が学年全生徒の指導を行う。 ⑬⑭	B	
	生徒の学校生活の成果について、生徒が具体的に可視化できるように努め、それによって生徒のより一層の成長を促す。	教育情報ネットワークやClassiなどのeポートフォリオを活用し、学習・進路両面で、学びの振り返りを自主的に行わせ、その後の生徒の活動を向上させる。 ⑥⑩⑭	B	
		各種検定・課外活動・校外活動に積極的に取り組ませることにより、生徒自身が目に見える形で自身の努力を評価できるよう支援する。 ①⑦	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
第3学年	最高学年としての自覚と責任に基づく自律的な生活を促し、社会にとって望ましい人間性の育成に努める。	服装容姿を整え、校則を遵守させる。⑧⑳	B	B	自己管理能力や基本的な生活習慣が欠如している生徒が一部に見られ、その対応に苦慮した。欠席に対してもっと厳しい対応をすべきであった。 3年後期に問題行動が頻発し、進路指導が重なったことから服装頭髪指導が手薄になった。事前の指導をもっと厳しくすべきであった。
		挨拶と丁寧な言葉遣いを励行し、社会で求められるマナーを身に付ける。⑧⑭	B		
		自己管理能力を向上し、事前準備を行うとともに時間を守る習慣を身に付けさせる。⑧	B		
	主体的な学習態度を確立し、基礎学力を充実させる指導により進路の実現につなげる。	教員間のコミュニケーションを密にし、ICTを活用して生徒の情報を共有しながら学年担当者全員が学年全生徒の指導を行う。①②③	A		
		授業の大切さを認識させ、予習復習の徹底を図り、基礎学力の向上に努める。⑥	B		
		教育情報ネットワークやClassiなどのe-ポートフォリオ活用し、学習活動・進路指導の両面で、学びの振り返りを自主的に積極的に行わせ、その後の生徒の活動を向上させる。⑥⑦	B		
		各試験、検定、課外活動に積極的に取り組ませる。□⑱	B		
	校内外の諸活動に積極的に取り組みせ、集団・社会における自己の在り方を学ばせる中で感謝の気持ちを育成する。	集団行動の意識を理解させ、協調性を育む。□⑫⑬⑭	A		
		高校最高学年としての自覚を持たせ、規律ある行動も求めるとともに、学校行事・部活動・ボランティア活動等に積極的に取り組ませる。⑫⑬⑭	A		
	将来の生き方について考えを深め、進路実現に向けて指導の充実を図る。	個別面談の充実。生徒の進路希望を把握し、個に応じた進路実現を目指す。また情報収集に努め、的確な情報を提供し進路選択を助ける。④⑤⑥②	A		
		講演会や学校主催の進路行事などを通して、生徒及び保護者の進路意識の啓発に努める。④⑥	B		

※評価基準: A:十分達成できている。 B:達成できている。 C:概ね達成できている。 D:不十分である。 E:できていない。